

## 『おもしろ漢字』（漢字の成り立ちに関する小学生向け教材）のご紹介

出野文莉

『おもしろ漢字』は小学校で習う漢字すべてをイラスト入りの漢字の成り立ちを楽しく学びながら漢字を覚えていくための教材です。小学校では、一年生(80字)、二年生(160字)、三年生(200字)4年生(202字)5年生(193字)6年生(191字)の合計1026字のすべてをこの教材の中に収めました。子供たちは、3歳から7歳の間に一生の一番多くの言葉を覚える能力があります。それより後の年齢に達すると、この能力は段々衰えていきます。このことは漢字についても同じことが言えます。私は幼稚園から漢字教育をすべきと考えています。なぜなら、幼稚園児は漢字を覚える能力が高いからです。その時期に漢字の成り立ちと読みや意味を覚えておくと、200程度の漢字は覚えられます。

漢字を早くから覚えると、論理的思考ができるようになり、いわゆる頭の良い子を育てることになります。文字学者の白川静博士の生まれ故郷である福井県は、小学校で白川漢字学を基礎とした漢字の成り立ちを教えています。福井県は小学校の教育水準が全国学力テストで秋田県に次いで二位になっています。小学生にとっては、まず国語的に文章を正確に理解することが、すべての教科の学力において大変大事であるのです。

漢字の成り立ちを習うと、系列的に漢字を覚えることができます。例えば、「学(學)」「覚(覺)」「教(教)」「凶」の中の「×」はすべて同じ意味で貫通しています。「×」は日本の神社の建物によくある千木のことで建物に邪悪なものが入ってこないためのまじないの記号なのです。また「方」「放」「敷」「激」「辺(邊)」の「方」は国の境界において横にわたした木に死者をつるして外部から来る邪気を払うためのものです。このように、漢字を構成する形態素の意味を覚えておくと、新出の漢字でも字の意味を想像することができるようになるのです。漢字の成り立ちをイラストで書くことによって、子供たちに漢字のイメージを抱かせることは、文字文化を教えることにもつながります。また、子供たちに漢字のイメージを記憶の中に固着させるのに役立ちます。

幼稚園で幼児が漢字を覚える方法として、認字という方法で行いたいと考えています。認字とは見て覚える字です。それに対して、書き取りをして書けるようになるまで漢字を学習する方法を写字と言います。認字を分かり易く説明しますと、例えば「鬱」という字は書ける人が少ないと思いますが、読み物の中で出てきたら、憂鬱や鬱病の「鬱(うつ)」であることは分かります。このように、書く練習をせずに、見て覚える漢字なのです。中国では、小学校1年生から写字とは別に認字で多くの漢字を教えます。中国の教科書は漢字だけなので、子供たちが多くの漢字を覚えなければ、国語以外の他の教科を学習するのに支障をきたすからです。私は、幼稚園児に小学校一・二年生で教わる160字を超える300字の漢字を認字で教えたいと思っています。

『おもしろ漢字』のイラストは、大阪教育大学の美術専攻の学生8名の協力により作成していただきました。さすがに美術を専攻している学生だけあって、イラストも大変上手に描けています。本当に助かりました。この教材を見て、子供たちがイラストを楽しそうに眺めているところを想像して、本

当にうれしい気持ちになります。学生たちは最初、漢字の原意をどのように絵にするか戸惑いもありましたが、だんだん慣れて要領よくてきぱきと進めていただきました。おかげで、大変充実したものになったように思います。この場を借りて感謝を申し上げます。

#### **一年生（80字）**

趙楊俊博（大学院、教育学研究科、芸術文化専攻、美術研究コース）

張恒茜（大学院、教育学研究科、芸術文化専攻、美術研究コース）

#### **二年生（160字）**

田中優奈（教育協働学科、芸術表現専攻、美術表現コース）

永田日向生（教員養成課程、中等教育専攻、美術コース）

#### **三年生（200字）**

石橋美邑（教員養成課程、小中教育専攻、美術コース）

西川春菜（教員養成課程、小中教育専攻、美術コース）

#### **四年生（202字）**

岡優七（教育協働学科、芸術表現専攻、美術表現コース）

櫻間玲衣（教育協働学科、芸術表現専攻、美術表現コース）

#### **五年生（193字）**

田中優奈（教育協働学科、芸術表現専攻、美術表現コース）

#### **六年生（191字）**

永田日向生（教員養成課程、中等教育専攻、美術コース）